



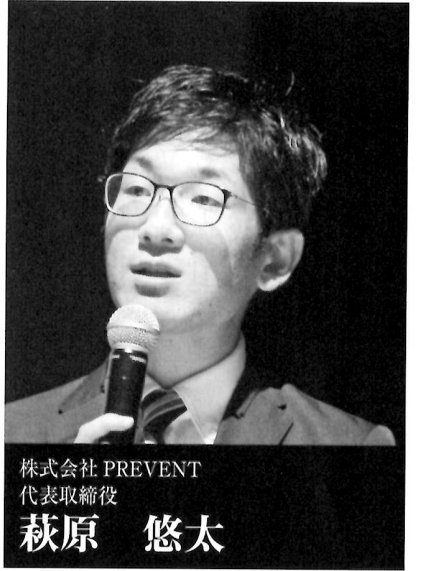
奈良県立医科大学 MBT 研究所

梅田 智広

センシング技術を活用した健康推進・高齢者見守りを叶えるウェルネスタウンの形成

奈良県立医大は、MBT（医学を基礎としたまちづくり「Medicine-based Town」）を提唱し、2016年4月に奈良県内外の民間企業とともにコンソーシアムを発足させ活動している。18年10月には、同大初のスタートアップとなる「MBTコンソーシアム」を設立。MBTコンソーシアムは、22年2月時点で227社が加盟している。そこで、今回は、奈良県下で病院、薬局、医療施設などを運営しているウエルグループと連携し、「センシング技術を活用した健康推進・高齢者見守りを叶えるウエルネスタウンの形成」と題して説明したい。

奈良県の高齢化は、着実に進んでおり、現時点で既に16%を超えている。現時点で既に16%を超えては、健康時から要介護まで住み慣れたまちで暮らせる仕組みが求められていると云ってよいだろう。この目標に向けて、今回は、ウエルグループの持つ医療・介護機関との連携の仕組み、ケアビズを組み合わせ、地域の課題を解決できよう。なサービスは大和野中央で実装している。健康の保持・増進に向けて、地域住民一人ひとりの心理や主観をサーベイする仕組みを把握した上で、個人に適切なメッセージを送り、行動変容を起こしてもらえよう。な仕組みを構築していく。そのためには、地域住民の皆さんに刺さるデータをしつかり反映、個別適応していく仕組みでサービスを提供していく。個人が肝要だろう。さ相談をアバターでどんな時間でも応じるなど新しい仕組みも取り入れ、リアルと行いたいと組み合わせた。また、今回はプラットフォームの連携として、デジタルの提供も想定している。な仕組みの提供も想定している。な実証事業の内容を具体的に述べる。まず、対象となる若年層



株式会社 PREVENT
代表取締役

萩原 悠太

eスポーツを活用したフレイル予防効果の検証

からアクティブシニアに向けては、ライフスタイルセンシング、デジタルマネージャーを提供する。医療・介護ケアの需要層に向けては、ヘルスケアセンシングを組み合わせてのことによって、住民の皆さんの生活・健康を維持して、見守りまでもできるようなサービスも提供していく。対象者の皆さんには、身体的健康のみならず心理的・社会的健康までも意識した計測が、日常の逸脱を知っていたら、5分ごとに計測するオリジナル時計を一人ひとりに配布し、使ってもらえる。対象者のご自宅では家庭用の機器にもつながる。それが可能で、それが全てプラットフォームで測定されたデータが、全てクラウド上で見ることもでき、取得されたデータを、ウエルグループと協力しながら、個人々々のニーズに基づいたサービスも提供していくことになっている。

「川西eスポーツコンソーシアム」は、NPO法人川西スポーツクラブと、(株)PREVENTで構成されたコンソーシアムだ。今回、「eスポーツを活用したフレイル予防効果の検証」を進めていく。まず、実証の背景としては、長引くコロナ禍による運動習慣や社会参加の減少などの事情から、同クラブのシニア世代の会員数が年々減少傾向にあったといったことが挙げられる。また、eスポーツにおいては、介護、認知症、フレイルの予防効果などが期待されており、世代や性別を超えて楽しめるコンテンツが充実している。そして、シニア世代におけるデジタルデバイドの解消なども期待され、次世代においてはより活発な利用促進も期待できるのではないかと考えられている。eスポーツを活用したフレイル

ル予防というところ、ニュースなどで活用事例が報告されている一方で、これまでの実証事業においては、「では、どういったものがどんな人にどれだけの効果が得られるのか」という包摂的

み、プロが指導を行っていきながら効果検証も行う。まずは、12名くらいの規模で実証を進めていければと思つて、11/2月にeスポーツの

明しよう。これまで、われわれは、過去の交通安全事故データや住民の皆さんからのご意見をもとに、①事故が多発している箇所②どのような事故が多発しているか③どんな要因で事故が発生し

ク箇所一を特定し、さらにさまざまな形で発生する事故リスク因子を現地で調査した上で、効果的な対策へと導くことが可能になってくるはずだ。具体的な交通安全対策に期しては、先ま